

掬水

きくすい

題字・佐藤重義

第 41 号

平成31年3月22日発行

〈事務局〉

秋田市手形学園町1-1

秋田大学教育文化学部
同窓会旭水會 内



出来るときに 出来る場所で 出来ることを

秋田市退職校長会副会長 佐川 眞理

比較的新しい住宅地の中にある我が家。通学路になつていて、特に登下校時は庭先で仕事をしていると、中学生たちが気持ちの良い挨拶をしてくれる。面白いことに、進んで声を出すのは数人で歩いている男の子たち。おしゃべり中の女の子たちや、一人で歩いている子たちはまたちよつと違う。それでも声を掛けて返事をしてもらえるのは、ホツとして嬉しいこと。返事一つでも、先生方が頑張つていらつしやるのだなと感じられる。

「豊かな人生を」これは私が中学卒業時に担任からいただいた言葉であるが、人と人との繋がりの豊かさが、豊かな人生へと繋がるキーワードなのだと最近になつて思う。

平成30年度、秋田市退職校長会は4月の総会に始まり「楽しい研修会」を5回、11月には第26回「現職退職校長会合同教育懇談会」を実施した。また、10月には「東北地区退職校長会協議会 秋田大会」が秋田市を会場に開催されたが、この会は秋田県の秋季研修大会も兼ねていたので、この会にもたくさんの方の会員の皆様に参加していただくことができた。

さて、秋田市退職校長会では、会の目的を達成するために五つの事業を行うと定めている。その中の「会員の福利厚生に関すること」として行つ

ているのが「楽しい研修会」である。1、日帰り各駅列車を楽しむ 2、音楽を楽しむ 3、味わいを楽しむ 4、手作りを楽しむ 5、運動を楽しむ 皆様に楽しい時間をもつていただければと企画したのであるが、少々参加者の少ないのが残念であつた。

ところで「社会寿命」という言葉を耳にしたことがありだろうか。調べてみると、伊那保健福祉事務所の所長である寺井直樹氏が「社会寿命を伸ばそう」と提案しておられた。「障害や疾病を抱えた方も、とにかく外に出て、動いて、他人とふれあつて、明日を考える。地域社会の中で他人と関わっていくことによって自身の健康が維持される」とともに、高齢者に対する地域社会からの働きかけの活発化も期待できよう」と。

これからの人生をより豊かに生きるためのヒントとなる考え方ではないかと思う。

退職校長会会員の皆様、繋がつていられることを喜び、かわり合ひしましょう。来年度はぜひたくさんの方々への参加を期待しております。

退職後も仕事の継続、社会活動やボランティア活動、加えて趣味や家庭生活の充実等々、忙しく活動されている方々も時間を作つてぜひご参加ください。

現職校長会との 教育懇談会から

11月10日（土）、協働大町ビルにおいて、現職・退職校長会合同教育懇談会が開催された。

開会式では、現職の秋田市中学校長会茜谷英也会長の挨拶に続き、秋田市教育委員会嶋崎公人教育次長からご祝辞をいただいた。

今年度は、「学校経営の活性化のために」～一人一人の教員の「教師力」向上に向けて～のテーマのもと、「教師文化の確かな継承に向けて」をグループ討議題とし、グループ討議を行った。

初めに、研修担当よりグループ討議題の趣旨について説明があった。近年の学校現場の状況、今後の少子化や学校規模の縮小等からの問題点、教師文化の確かな継承への不安等から、これからの学校経営において、若手教員や中堅教員へ教師文化を確実に継承していくこと、中高年齢教員の志気を維持・高揚すること、大きな課題であることから、「教師文化の確かな継



承に向けて」をグループ討議題とした。各グループの話し合いは活発かつ熱心に行われ、約一時間三十分の討議の時間があっという間に過ぎていった。

グループ討議の概要

【研修会・研究会の工夫】

- ・年齢、経験、資質能力に関わらず、すべての教員が関わるのは授業である。週一でも、若手教員が授業作りを学ぶ機会をつくることが大切である。
- ・校内外の授業研究会で、人の授業を見て学び、自分の授業に取り入れることができる。そのためには、若手に授業を見る機会を与えることが大切である。
- ・教師になったとき、教科研究会に所属して自分の専門教科を勉強することは、秋田で継承していかなければならない。

【校務分掌の工夫】

- ・若手に大切なポジションを付けて育てることも必要である。
- ・若手登用を試み、学年主任の平均年齢を下げる取組をしている。
- ・学年部で生徒指導や保護者対応等、ベテラン教員と若手教員が共に対応することで、指導力の継承を図ることができるが、やはり人によるところがある。
- ・保護者や地域との対応には、若手担任を一

人にしないでチーム体制で対応することが大切である。

【若年層の育成】

- ・今の新採や初任者は優秀でよくやっているが、学校現場のことでわからないことがたくさんある。何を誰に聞けば良いのかを管理職が教えることも大切だ。
- ・世代交代が進み、若手が増えたことで学校が活性化している。指導力の格差を組織力でカバーしている。
- ・学校行事を通して、学年部がチーム力で若手を育てている。
- ・若手のコミュニケーション能力を高めることが肝要である。
- ・若手とコミュニケーションをとり、若手教員が孤立しないように、声かけをしていかなければならない。
- ・パソコン作業も部活指導もやらない時間を強制的に作って、子どもの情報交換等をもっとやるべきである。若手もこういうときにいろいろと学ぶことができる。

【ミドルリーダーの育成】

- ・ミドルリーダーが不足していて、仕事の引き継ぎができない。
- ・五十代層が厚いため、四十代教員の力量を高めることが難しい。五十代の退職後が心配である。四十代の登用により、五十代の経験を伝えることが大切である。

【ベテラン教員のモチベーションの向上】

ベテラン教員の中には、管理職でなくともすごい力を持っている人がいる。その力を適材適所で生かすことが必要である。具体的には「力量があると思われる」点をほめながら声かけをしていくことが必要である。

・いいところをくすぐる、紹介する、校長が直接ほめることでモチベーションを上げることになる。



【校長の役割】

・若手教員が相談しやすい環境作りを校長がコーディネートする必要がある。

・その気にさせる声かけを校長がすべきである。

・若手がすぐに相談できる体制が大切ではないか。各年齢層で相談しあう職員室の雰囲気してほしい。

・組織を変えて、若手を育てること。これが学校を変えることにもつながる。それが校長の仕事である。そのきっかけを作ること

・校長の役目である。

・校長がビジョンを持ち、伝えていくことや年齢に関係なく職員を適材適所に配置することが大切である。

・一人の教員の成長が、周囲の教員を成長さ

せることにつながることはよくある。人間関係を濃くする仕組みを作っていくことが大事である。

【おわりに】

小・中の違いや学校規模により、現場の状況に違いがあるものの、今現在若手は活力があり意欲が高い状況にある。困り感や授業改善の視点から、ベテラン教員が常に相談に乗り、時には一緒に解決に向けて取り組むことで、教師文化の継承にもつながっていくものと思われる。

問題は、これから訪れるであろうベテランの大量退職期に教師文化の継承が思うようにできるのかという心配である。

グループ討議での話題から、教師文化の継承のためには、校長の役割が不可欠である。職員の実態を把握し、地道に声をかけ、話ができる人間関係を作り、一人一人を認め、教師文化の継承の下地作りをすることが大切である。そ

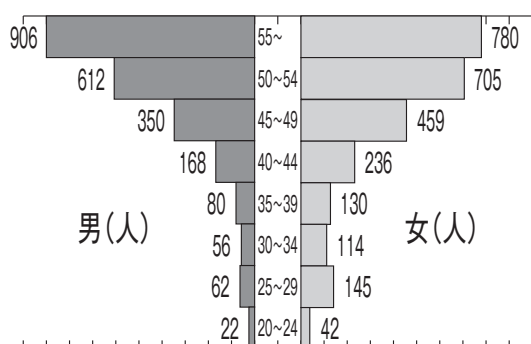


※資料

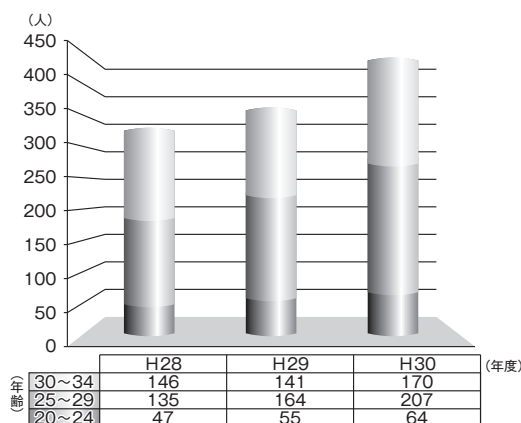
教員の年齢構成（公立）

平成30年4月1日

小・中学校（4,867人）平均年齢49.8歳



最近の年度別 若年・中堅教員数（20～30代前半）



のために校長としての人間力を磨いていかなければならないと感じた。

（文責 阿部編集委員）

教育懇談会

現職校長の感想

太平中学校長 福司 秀俊

本懇談会には、昨年に続いて2回目の参加となります。これまでに同職させていただいた先生やお世話になった先生方など、今回も多く先輩方が参加されていて、多少緊張しましたが、先生方のご経験を基にした具体的なご指導、ご助言をいただくことができる貴重な機会であることから、それを楽しみにして参加させていただきました。

今回の懇談のテーマには、秋田の教育現場がまさに直面しようとしている切迫した状況が背景にあります。教員の大量退職と若手教員の採用者数の増加、一方で児童・生徒数の減少による学校規模の縮小化が同時進行し、これに伴ってこれまで日常的に教育活動の中で行われてきた同僚や同世代教員からの学びの機会が途切れがちになり、若手・中堅教員の指導力育成をめぐる環境が変化してきていることは重要な課題であると思います。退職校長会が独自のアンケート調査の結果から分析を進め、このような機会に発信していただけることは、現職の私どもにとって大変有り難く思うところです。

グループ討議の場では、討議題に基づいて小・中現職の校長先生方から様々な状況とそれに対応する取組が出され、参考にさせていただくべき点がたくさんありました。ですが、やはり重みを感じたのはそれを受けての先輩からのお話でした。校長は個々の教員への思いや期待する教師像を明確に伝えること、核となる教員と他の教員とのつなぎの視点をもつこと等、これまでの秋田の教育を支えてきた豊富な経験と実績からにじみ出るお話に聞き入っていました。

今後も本懇談会が、秋田の教師文化を確かに次世代につないでいく機会となることを祈念しております。そのためにも先輩方には、どうかこれからも貴重なご示唆をいただけますようお願い申し上げます。

大住小学校長 齋藤 徹

11月10日に行われた表記の会に参加させていただき、大変、身の引き締まる思いのするひとときとなりました。

今年4月に新任校長として着任し、「一職員として校長を見ていた」時代から「校長として職員から見られている」時代に変わったのだという実感をもっていただけに、校長としていかにして職員に関わっていくかという自分の基本姿勢を振り返ることにつながったからです。

特に、グループ討議題の「教師文化の確かな継承に向けて」に関しては、『教師も人間修行なのだ。組織人として学校の役に立つ人間になってほしい。そのためにこんな教師になつてほしいのだ、という校長としての思いを熱く語ってほしい。』とおっしゃった佐藤俊彦会長先生のお言葉が強く印象に残っています。

私自身、職員の様子を観察しながらも、職員の働きやすさを優先するあまり、高みを目指して粘り強く取り組む教師集団を形成していくことや、その途上で一人一人の職員に願いや期待を委ねていくための信頼関係を作っていくことに関して、少し遠慮していたのではないかと気付かせられました。

もちろん、職員の健康や家族の状況、得手・不得手にも配慮していくことは大事ですが、その職員の個性や特性に合ったポストを充て、その職員を核にして仕事を進めていくことで周りの職員も育っていく。その中で教師文化の継承も行われていく。そのきっかけを校長が作っていくのだという思いを強く胸に刻む一日となりました。

このような貴重な機会をいただき、校長として進むべき道標を示してくださった退職校長会の先生方に、心より感謝申し上げます。



交流のとびら



保育園で 人格形成の原点を

津谷 ゆき子

今思えば、三十八年間の教職人生は、師と仰ぐ大先輩や語らうことのできる同世代や、才能あふれる若者世代との出会いに恵まれた幸せな日々だったと感謝している。

退職した次の日から、私の第二の人生がスタートした。二度の手術でリフレッシュしたため、命と人生に度胸が据わっていた。

退職後、県総合教育センターで、小中高の先生方と共に過ごし、一緒に教育に理想と望みを抱くことができた。県生涯学習センターでは、高齢の受講者の姿を拝見し「人生は最期の時まで学習である」ということや、子どもたちには、本物の自然体験や密度濃い人との関わり体験が必要であることを学んだ。秋田県女性会館では、今日に至るまで女性の地位向上の歴史や世界における日本の現状等について学ぶことができた。

現職時代から生活科教育研究会に所属し、低学年の時期に体験しておくべきことは何かを追究してきたが、幼児期の教育・保育への関心が深まって、学習会に参加したり関連図

書を読みあさったりした。そんなとき、澤口俊之氏の研究関連図書「幼児教育と脳」に出会った。0歳から8歳くらいまでが人格形成の原点であることを悟った。

そして、昨年七月から、考えてもみなかった保育園の園長に就任した。今、0歳から就学までの子どもたち五十九人と一緒に生活している。乳幼児期には、人格形成の基礎を培うことが大切であることを肝に銘じて、主任や職員に助けられ園全体を見守っている。保育の仕事は結構難しい。離乳食を与える場合は、食材の一品一品チェックして提供する。種類だけでなく大きさや切り方まで考えながら細心の注意を払って提供する。病気やけがや衛生管理には徹底して配慮する。子どもの命を預かりながら、人格形成の基礎となる体験をさせていくことは、至難の業である。保育士には、究極の気力・体力・判断力が求められるため、神経をすり減らしながら仕事をしている。子どもたちの笑顔と成長の喜びが意欲を引き出してくれ、優しく温かくあるときは厳しく愛情を注いでいる。本物の保育をするためには、専門的な知識が要求される。質の高い保育を目指して頑張っている。毎日、過去の我が子の子育てと比較して、我が子に詫げる思いでいる。

少子化時代、教育と福祉の二つの要素を持つ保育園に対する社会の理解と応援が、絶対に必要だと思うこの頃です。

(平成二十年三月退職)



地域に生かされて

杉 沼 誠

退職して地域と関わることが多くなりました。私が住む「将軍野四区」という町内は一年間を通じて様々な行事を行っています。春はタケノコ採り、夏はラジオ体操と夕涼み会、秋は地区運動会、敬老会、グラウンドゴルフ大会、冬はボーリング大会と季節毎の行事が目白押しに行われます。現在「壮年会会長」という立場にある私は、ほとんどの行事に関わっています。そして最も重要な行事が「土崎港曳山祭り」です。祭りの詳細は紙面の関係上省きますが、土崎の住民にとっては幼い頃から体に染みついた血の沸くような祭りです。武者人形を載せた曳山を「ジョヤサ」のかけ声で曳子が綱を波のように曳く様は勇壮であり、港若衆の晴れ舞台でもあります。地元を離れて暮らしていても、正月ではなく祭りにあわせて帰省するという人も多くいます。それほど魅力をもった祭りです。

昨年、私はその曳山祭りの委員長を務めました。大変名誉なことではありましたが、その務めを果たすためには苦勞も多くありました。委員長は曳山に関する全てにおいて責任者となります。委員長の判断で全てが決まります。立场上「待った」は通用しません。祭り当日まで気の抜けない日々が続きました。7月20日・21日の祭り本番で曳山の先頭をカ

ンカンボウを被って歩きました。勇壮な曳山を従え歩くことは一生に一度だけであり、深い喜びと感動を味わいました。

私は委員長という経験を通して、地域の教育力ということを改めて考えさせられました。伝統を継承していく過程において、地域の人材をいかにして育てていくかということです。幅広い年代が集い、一つのものを成し遂げようとするためには「教育」という営みが必要に思います。先頭に立つ者には、目標の設定・共有、役割分担、進捗状況の把握、そして必要に応じて指示を与えるといったマネジメント力が求められます。先輩、後輩の関係が薄れていく中で、縦社会の関係を保つということも大切なことです。このことは学校経営にも通じることであり、校長としての経験を活かすことができたのかなと思っています。曳山祭りのもつ教育力を大切に継承し、更なる地域の活性化に向け、微力ではありますがこれからも主体的に関わっていきたいと思っています。

(平成二十八年三月退職)



「ただいま」の声と共に

高橋 ゆり子

「リリー先生、今日学校でほめられたよ。」「帰る途中でそろんじゃったけど、大丈夫。」「リリエンス、あのね。」放課後の子どもたち

は、元気いっぱい、目を輝かせて、楽しかったことや面白かったことなど、口々に今日の報告をしてくれます。時には、泣きべそさんや肩を落としてがっくりの日も。

退職後、縁あってこの学童クラブにお世話になって、二年目になりました。初めは、学校現場での経験が通用しない状況に悩む毎日でした。初めて知る放課後の子どもたちは、学校での姿とも、家庭での姿とも違う、エネルギーの塊。毎日、あつちで衝突、こつちで小競り合い、ヒヤリハット前に怒鳴ってみたり、叱ってみたりで心は折れました。さらには、保護者からの申し入れに、私自身も振り回されて、無力感を覚えたものでした。

子どもたちから遊びに誘われても、運動神経ゼロでは身体がついていかないし、トランプでは最新のゲームにはスピード感なしであり、きられるし、生まれつきの不器用で工作も手芸もへたつぱの私です。周りの職員たちは遊ばせ方がとっても上手。器用で工夫好きの職員たちの支援で、子どもたちのものづくりの技は日々進化しています。ホールでは、なわとび、ボールと歓声が響いてきます。遊戯室では、けん玉やコマ回しで子どもたちと職員とが対決しているようで、みんな笑顔いっぱいになって、幸せな時間です。

さて、私は何ができるかなと悩んでいた時、「リリー先生は、うちのおばあちゃんみたい。」の一言をもらいました。そう、学童のそばにはなろうと決めました。まずは、ゆったり、

ほんわか気分が玄関に立つて「お帰りなさい。」のお迎え係。それから、明るく、元気に「さようなら、また明日。」のお見送り係。困ったときのリリー先生で、子育てよろず相談係。それから、悲しい時や寂しい時の抱っこ係。これからも、体力や知力に磨きをかけて、若いふりしながら、子どもたちや働くお母さんたちのそばに寄りそう、ばあばでありたいなあと思っています。「ただいま」今日も元気な声が聞こえます。さあ、やどめ学童クラブオープンです。

(平成二十八年三月退職)



秋田公立美術大学 教職支援室

佐藤 淳

平成三十年四月から、秋田公立美術大学教職支援室で仕事をしていますので、この大学が教員養成カリキュラムとして行っている教育実習関連科目を紹介したいと思います。

・一年次「教職入門」これまで学ぶ側から見てきた教員の仕事を、教える側の視点で附属高等学院の授業を観察することなどによって、教員になることを選択する意義と教員になるために何を学べばいいのかを考える。

・一年次「学校体験実習Ⅰ」秋田西中学校で、登校時間から下校時間までの教師の仕

事と生徒の姿について観察し、生徒が主体的で自律的な生活をつくっていくために必要な教師の組織的な取組について学ぶ。

・二次「介護等体験学習」 特別支援学校及び社会福祉施設等での実習により、対人コミュニケーションや自立を育むために必要なケアについて学ぶ。

・二次「学校体験学習Ⅱ」 雄和中学校と秋田南高等学校で、実際に教壇に立つて美術の授業を行う。教材研究の重要性を意識し、授業者の視点に立つことを目的とする。

・三次「教育実習事前事後指導」及び「教育実習」 教育実習に必要な手続きと心構えを確認し、学習指導案や教材活用方法、実習日誌の作成など、授業実習に必要な知識と技能を身に付け、「教育実習」に向かう。

・四次「教職実践演習」 教員としての使命感・責任感・教育的愛情等に関すること、や社会性・対人関係能力に関すること、生徒理解・学級経営等に関すること、教科・領域の指導力に関することなど、「教育実習」を補完して教員生活の円滑なスタートを目指す。

これらの教育実習関連項目について、各学年とも毎週最低一時限（90分）の授業があります。退職後にKJ法で授業をするなどとは思っていませんでしたが…。

（平成三十年三月退職）



八橋運動公園の一角で

後藤 由美子

今年のお正月は、例年以上にテレビの前に釘付け状態の私だった。毎年楽しみにしている「箱根駅伝」に加え、全国高校サッカー大会において勝ち進んでいる「秋商」の試合があったからだ。ベスト8で敗退したものの強豪校を相手に最後まで足を止めることなく、身体を張って相手のシュートを防ごうとした、その諦めない粘り強いプレーは、昨年の夏、快進撃を続け秋田県のみならず全国に旋風を巻き起こした「金農」と同じく、私の胸を熱くした。

私は、昨年4月から八橋運動公園の中にある、八橋陸上競技場二階の適応指導教室に勤務している。窓を開けていると、隣の野球場からは中学校や高校の野球の大会の大きな声援や歓声が響いてくる。もちろん、「金農」の野球の試合の様子も垣間見えたり、声が響き渡ったりしてきていた。また、八橋陸上競技場では、各種陸上の大会や各校の運動会などだけでなく、中学校や高校のサッカーの大会も行われる。高校サッカー県大会決勝の「秋商」の試合を、適応指導教室に通ってくる子どもたちとも観戦した。その試合での「秋商」の選手の、全力で戦い抜く姿だけでなく、整然とアップをしたり礼儀正しく挨拶をしたりする姿を、室内走路で何回も目にしていただ

けに応援したい気持ちも増し、今回の全国大会での活躍はさらに嬉しく思った。

今まで小学校のみに勤務し、中学生と直接接する機会はありませんでした。しかし、適応指導教室に相談に来たり通ってきたりする子どもたちだけでなく、この八橋運動公園にある様々な施設を訪れる中高生の浚刺とした姿にも、たくさんふれることができた一年だった。毎日を新鮮な思いで過ごしている。

秋田の若者たちの姿を間近で感じることができ、日々パワーをいただいている。いただいたパワーを教室を訪れる子どもたちに、私を介して少しずつでも「じんわり」と伝えていけたらいいなと思っている。

教室から眺める八橋運動公園の景色がこの一年で大好きになった。今は一面の銀世界。八橋運動公園は静寂の中。裸のプラタナスの木々に緑芽吹き、若者たちの声が響き合う春を、また心待ちにしている私である。

（平成三十年三月退職）

楽しい研修 「えがったあ〜」



一 各駅停車旅 第三弾

平成30年 8月26日（日）、あい

にくの雨が降る中、午前9時半秋田駅に集合。みどりの窓口の入り口に大きく貼られた「金足農業高校おめでとう」の横断幕の前で記念撮影。いざ、各駅停車の旅へと出発。

途中からはお天気にも恵まれ、弘前駅で奥羽線に乗り換え、あたりが薄暗くなった頃に秋田駅に戻ってきました。佐藤重義先生の企画におんぶに抱っこの旅。心に残る「青春切符」の旅でした。

二 柳生和大チューバリサイタル

10月6日(土) 午後2時〜秋田県主催事業『柳生和大氏チューバリサイタル』 柳生氏は秋田の出身。秋田大、東京芸大大学院を経て数々のコンクールで第一位グランプリを受賞。現在名門オケの首席奏者です。

「フランス・スイス、アルプスの山並みを思い出し、チューバという大きな楽器から想像できない旋律に虜になり、その響きと音楽は一瞬魂を抜き取られるようでした。」とはお友達を誘い鑑賞に來られた相場郁子氏のコメントです。

※彼の言葉「自分はアトリオン音楽ホールと共に成長してきました」

三 酒造探訪

2月15日(金)、13名が参加しました。森谷杜氏の酒米についての講話では、「現在、ほとんどの金賞受賞酒が使用している酒米『山田錦』を吉永小百合とすれば、秋田の酒米『美山錦』はキリッとしている北川景子、味がマイルドな『酒こまち』は佐々木希か

な。小百合は小百合、景子は景子。それぞれの良さがあってよいはず！」と、楽しく話してくださいました。その後、酒造工程を見学後試飲。この時期、この蔵でなければ味わえないいろいろなお酒と酒香寿(さけかす)料理を堪能し、大満足の研修となりました。



作品紹介

石川 勲

第35回白峰賞書展 招待審査員賞受賞作

「雨の白鷺」

読み・雨の白鷺 豪雨特急うねるとき白鷺を見た



島谷 弘 幸

九州国立博物館長選

選評 四文字を右から左に大書する。通常横書きと違う人が多いであろうが、これは一行一行詰めの縦書きである。「の」の斜めに引いた線が美しい。力任せではできない洗練された線、これによって作品が生まれている。もちろん全体の構成も素晴らしい。

事務局から

○平成三十一年度年間行事予定

・秋田市退職校長会

監査 平成31年4月18日(木) 午前10時30分

理事会 〃 4月27日(土) 午前10時

総会 〃 4月27日(土) 午後1時

講演会・懇親会 4月27日(土) 午後2時10分

謹んでお悔やみ申し上げます

平成31年1月31日まで(敬称略)

- ・加藤 昌弘 平成30年7月30日ご逝去
- ・佐々木信吉 平成30年10月1日ご逝去
- ・鈴木 弘 平成30年10月16日ご逝去
- ・渡辺 昭次 平成31年1月30日ご逝去

祝叙勲

(敬称略)

・瑞宝双光章 秋の叙勲

加藤 豪之助 秋田市柳田

あとがき

今回の会報も、たくさんの方々のご協力で行うことができました。心から感謝申し上げます。退職校長会の活動が充実し、今年も良い年になりますよう皆さまとともに祈りしております。